

令和5年度 三田市障害者基幹相談支援センター事業報告

総括

三田市の業務委託により基幹相談支援センターを運営し今年度3期目を迎えた。

基幹相談支援センターは三田市障害者総合相談窓口「きいてネット」の一員として障害者生活支援センター、精神障害者支援センター、就業支援センターと協働し地域の中核的な相談機関を担っている。

今年度は基幹の役割として特に人材育成や地域づくりに取り組んだ。相談支援専門員だけでなくヘルパー、市民や学生に向けての育成など、また地域の居場所とのネットワークの構築や地域と協働して社会資源を開発していくなどの取り組みを行った。地域に障害者への理解や協力を広げ、障害がある人も暮らしやすい地域づくりのためのネットワークを生かした支援を今後も進めていく。

1. 総合的・専門的な相談の実施（令和5年度12月末）

「きいてネット」内の4つの事業所がそれぞれの専門性を活かしながらワンストップで幅広い年代、障害に関する様々な相談に対応した。若年層の相談も増えている。

(1) 相談支援を利用している障害者等の実人数 (単位：件)

	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	難病	その他	合計
障害者	23	12	26	37	31	3	1	2	135
障害児	1	5	3	2	10	0	0	1	22
									157

(2) 支援方法 (単位：件)

訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援会議	関係機関	合計
99	136	25	468	160	30	724	1,642

(3) 支援内容（重複あり） (単位：件)

福祉サービスの利用に関する支援	488
障害・病状の理解に関する支援	39
健康・医療に関する支援	291
不安の解消・情緒安定に関する支援	284
保育・教育に関する支援	43
家族関係・人間関係に関する支援	170
家計・経済に関する支援	74
生活技術に関する支援	75
就労に関する支援	75
社会参加・余暇活動に関する支援	65
権利擁護に関する支援	64
障害者虐待に関する支援	65
障害者差別に関する支援、	15
自立生活・地域移行に関する支援	340
合計	2,088

○ 出張相談 (1回)

「きいてネット」の窓口を知ってもらうため、高平地区「さとカフェ」にて出張相談会を開催した。当日は就労継続支援 B 型事業所のみ作業所とコラボイベントとして、さおり織体験会を行った。開催にあたって高平地区まちづくり協議会と検討を重ねた。

2. 地域の相談支援体制強化の取組み

(1) 地域の相談支援事業所への専門的な指導、助言、人材育成

相談支援事業所連絡会や相談支援専門員研修などの定期的な機会を設け、サービス利用計画書の作成ポイントや事例検討、面接技法など相談支援専門員の質の担保を目的とした内容を実施した。また 1 業所では対応困難なケースは基幹相談支援センターが相談支援専門員と協働し、ケースの相談対応や個別支援会議への出席、同行などを行った。

○相談支援専門員研修

開催日	内容	出席者数
7月18日	「動機づけ面接法 (MI)」 講師：公認心理士 ブラウン恵美氏	21名
9月18日	「面接技法 I」 講師：公認心理士 ブラウン恵美氏	14名
11月21日	「面接技法 II ロールプレイを通して学ぶ」 講師：公認心理士 ブラウン恵美氏	17名
2月20日	「計画相談の書類を作成・提出する際のポイント」 講師:三田福祉の里相談支援センター 奈良卓也氏	24名

(2) 地域相談機関・支援者との連携・協力体制の構築・強化

相談者の問題が複雑化しており、相談支援専門員にも幅広い知識が求められる。また、他の関係機関との連携が欠かせない中で、これまでケースや会議・連絡会等の参加を通して、様々な機関との関係が構築されてきたことが活かされていると感じる。市内・圏域等の連絡会等に参加し、情報共有と連携強化を図った。

実施主体	項目	回数
市	さんだ子どもネット	2か月毎
	さんだ子どもネット課題部会	〃
	ヘルパー事業所連絡会	〃
	地域移行連絡会	〃
	三田市教育委員会面接相談	10回
	三田市教育相談支援チーム連絡会	2回
	三田市立学校における医療的ケア運営協議会	2回
	第3次地域福祉推進計画策定委員会	9回
	藍包括支援センター連携会議	3回
阪神北圏域	相談支援専門員定例連絡会	毎月
	主任相談支援専門員定例連絡会	毎月
阪神圏域	医療的ケア児等コーディネーター阪神圏域連絡会	3か月毎
	西宮市障害者介護給付費等審査会 委員	4回
県	市町基幹相談支援センター連絡会	年3回

3. 地域移行・地域定着

～入所施設から自宅へ～

身体障害者手帳1級の脳性麻痺のある50歳代女性の地域移行を相談支援事業所と共に支援した。障害者施設入所中に母が亡くなったことをきっかけに施設を退所して一人暮らしを希望。自宅での一人暮らしは初めてであったため実生活のイメージを持つための訓練を西宮の自立体験基地で行った（三田に体験場所が無かったため）。訓練を経て、実家より利便性の良いところで暮らしたいという想いがあり障害のある方を受け入れてくれる物件を探すのがなかなか見つからない、本人の体調も安定しない、一人暮らしが近づく中で本人が考えないといけないことも増え、不安が大きくなり、現在は本人の希望により地域移行支援を一時中断している。

これまで基幹、相談支援専門員、入所施設職員、地域の民生委員などさまざまな人が関わり役割分担をして支援を行ってきたが、一つ一つ本人に納得してもらいながら進めていくには支援が長期間となる。その間の本人の体調管理や気持ちに寄り添い、できるだけ不安を感じさせない支援が必要である。

4. 障害の理解・啓発

(1) 社会資源マップづくり「Wheelogさんだ」(9回)

車いす当事者と関西学院大学ボランティアサークルエコハビと福祉関係者が「Wheelog」というスマートフォンアプリを使って「お互いが助け合える仕組みづくり」を行っている。

基幹としてもこの活動に賛同し、誰もが暮らしやすい三田を目指して街歩き、啓発イベント、啓発、会議等を行った。

(2) 関西学院大学の講義に参加(3回)

市、若者まちづくり課より「Wheelogさんだ」メンバーとして「情報化社会と人間」の講義に参加。福祉に関心を持つ学生が企画した「ポッチャであそぼう！」のイベントについて基幹として協力し、3/22に実施する運びとなった。

(3) さんだ知的障害啓発隊「はぁ～とポケット」(4回)

三田市手をつなぐ育成会と協働して「はぁ～とポケット」という名称で基幹相談支援センターはじめ、福祉の関係機関が協力し合って、一見分かりにくい知的障害、発達障害の特徴について体験を通して学んでもらう、知ってもらうことが理解につながっていくとして活動を行った。

開催日	項目	場所
9月11日	丹波篠山市手をつなぐ育成会 研修	丹波篠山市役所
9月13日	本庄小学校 福祉学習	本庄小学校
11月2日	本庄小学校 交流会	本庄小学校
11月23日	介護・ふくしフェア	まちづくり協働センター

(4) 発達障害に関する研修(4回) 場所：総合福祉保健センター

発達相談などで療育の案内をされた児童の保護者・関係機関を対象に講座を開催した。

今年度は初めて兵庫教育大学との連携講座を開催し、保護者の「ペアレントトレーニング」への関心の高さを確認した。現在、児童発達支援に関わる支援者とともに三田市でペアレントトレーニング実施に向けての準備を進めている。

開催日	項目	参加人数
6月27日	こども療育講座「気になる行動の背景と関わり～楽しく遊んで育てよう～」講師：UT キッズさんだ 岩城 大氏（作業療法士）・青山会 萩原 巴絵氏（臨床心理士）	20名
7月15日	三田市・兵庫教育大学連携講座「発達障害と子育て」講師：兵庫教育大学 岡村 章司 教授	31名
11月27日	こども療育講座「気になる行動の背景と関わり～楽しく遊んで育てよう～」講師：UT キッズさんだ 岩城 大氏（作業療法士）・青山会 萩原 巴絵氏（臨床心理士）	10名
12月25日	発達障害講演「さあこれからはあなたの時間です～療育・育児の卒業タイミング～」講師：笹森 理絵氏	17名

(5) 障害者差別解消研修（支援者・行政職員対象） 場所：総合福祉保健センター
市役所内全ての課からの参加を目標に呼びかけ、25課より職員が参加。地域包括支援センター職員やケアマネージャー等の介護保険分野からの参加者も多数あった。

開催日	項目	参加人数
2月16日	障害者差別解消法 研修 講師：神戸女子大学 植戸 貴子教授	71名

5. 障害者等に対する虐待を防止するための取組み

障害者虐待相談ダイヤルを基幹相談支援センターに設置し、24時間連絡の取れる体制を整えている。虐待防止の取組みのとして支援者と障害のある当事者を対象とした研修を行い、虐待防止に関する相談窓口の周知も行った。

(1) 支援者対象（4回）

開催日	項目	場所
5月19日	社会福祉協議会介護サービスセンター職員研修 「障害者虐待防止について」2回	総合福祉保健センター
2月27日	医療福祉センターさくら職員研修 「障害者虐待防止について」2回	医療福祉センター さくら

(2) 当事者・支援者対象（7回）

市内の通所事業所とへ出張し、グループワークや市民劇団による寸劇を通して虐待とはどういうことか、虐待かもしれないと思ったらどうするかを分かりやすく伝えるように試みた。障害者自身に正しく理解してもらい声をあげて周囲に伝えられるようになる、そして障害者からの声が職員の意識を変えていくことで虐待を防止することを目的とした。

コロナが落ち着いたことで今年度初めて入所施設で研修を実施することができた。

開催日	場所
9月25日	三田わくわく村志手原事業所（就労移行）
9月25日	三田わくわく村大原事業所（生活介護）
10月24日	三田わくわく村すずかけ台作業所（自立訓練・就労継続支援B型）
11月28日	沢谷荘（障害者支援施設）
12月19日	三田わくわく村本町事業所（就労継続支援B型）

6. 地域生活支援拠点等の運営

障害者等の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるとともに、地域生活において障害者やその家族などの緊急に対応を図るものとして、基幹相談支援センターは、①24時間の相談対応 ②緊急時の受け入れ・対応の機能を担った。

また兵庫県地域理解促進事業として研修ビデオ制作に協力し、精神障害のある方たちの家族を対象に研修を行った。

開催日	項目	主催
2月13日	「親亡きあとに備えるために 地域で暮らすためのヒント」講義・ビデオ視聴・個別相談	兵庫県地域理解促進事業 三田市にじの会

7. 地域の居場所「ゆるり」（6回）

障害の有無に関係なく誰もが参加できる地域の居場所。平日夕方に2ヶ月毎に開催、食材はパスカルさんに提供していただく機会もある。参加者からは「皆でご飯を作って食べられるのが楽しい」という声が多く、お菓子作りなど得意なことを活かせる場にもなっている。

今年度は地域住民の方から「三輪神社のまつり」の日に自宅を開放してくださり、いつもとは違った「ゆるり」を楽しむことができた。

- ・場所：総合福祉保健センター栄養指導室・中央公民館・地域住民宅
- ・担当：基幹相談支援センター、精神障害者支援センター、就労B型アイクロッソ

8. 人材育成の取り組み

昨年度に続き、兵庫県相談支援従事者研修の企画構成・研修講師を担った。今年度は人材育成の新たな取り組みとして、社会福祉士養成実習生を2名受け入れ、社会福祉士の役割と地域における基幹相談支援センターの機能・役割など広く学んでもらえるよう、実習指導を行った。

項目	回数
兵庫県相談支援従事者初任者研修企画構成委員・研修講師	23回
兵庫県相談支援従事者現任者研修講師	3回
兵庫県障害福祉人材育成検討・人材育成ビジョン策定会議	3回
社会福祉士ソーシャルワーク実習指導（大原学園専門学校）	23回（180時間）
社会福祉士ソーシャルワーク実習指導（神戸女子大学）	8回（60時間）

9. 講師・実践報告

開催日	項目	主催
7月7日	講義「成年後見制度について」	阪神北圏域相談支援事業所連絡会
1月18日	兵庫県相談支援従事者 専門コース別研修 地域移行「三田市地域移行の取組」報告	一般社団法人 兵庫県 相談支援ネットワーク
1月25日	「三田市医療的ケア児等支援連絡会の取組」報告	兵庫県医師会 小児在宅 医療推進会議
2月27日	「自殺未遂者支援について」 きいてネットにおける事例共有	宝塚健康福祉事務所 管内自殺予防推進会議
2月28日	講義「相談支援の役割を知る・三田市の相談支援 体制について」	川西市相談支援部会

10. 外部研修出席

開催日	項目	主催
5月9日	「自立とは何か」	西宮市自立支援協議会本人部会
6月5日	阪神北圏域スキルアップ講座「精神障害に関する相談の受け方、事例への関り方」	阪神北圏域相談支援コーディネーター
7月9日	兵庫 SST 研修会「誰にでもできる SST」	兵庫 SST 研究会
7月28日	「メンタルヘルスとコロナ」	ひょうごこころの医療センター
8月8日	阪神北圏域スキルアップ講座「発達障害について」	阪神北圏域相談支援コーディネーター
11月17日	「困難事例から学ぶ研修」(神戸市中央区)	兵庫県看護協会
11月20日	こころの病家族教室「統合失調症について」	三田市精神障害者家族会 にじの会
11月25日	阪神地区精神保健福祉研修会	ひょうかれん